

Gelatinous bone marrow transformation を認めた 4 例

©山田 隆¹⁾、國府 幸子¹⁾
新潟大学大学院¹⁾

【はじめに】 Gelatinous bone marrow transformation (GMT) は骨髄の膠様髄、骨髄のゼラチン様変化などと呼ばれる稀な病態である。我々は、この度種々の疾患で 4 例の GMT を経験したので報告する。

【症例 1】 男性。基礎疾患： HIV 感染症、糖尿病性腎症、甲状腺機能低下。臨床経過： 12 年前より抗 HIV 治療。現在 HIV は検出感度未満。半年前より白血球減少、血小板減少を認めたため骨髄穿刺となった。臨床検査： WBC 2530/ μ l、Hb 9.5g/dl、Plt 8.1×10^4 / μ l、TP6.0 g/dl、ALB3.2 g/dl、A/G 1.14、AST 21U/L、ALT 28U/L、LDH 185U/L、CHE 119U/L、CRP 0.23mg/dl、BMI 16.28

【症例 2】 男性。基礎疾患： MDS EB1 with fibrosis。urPBSCT 後。臨床経過： 血球減少を認めたため骨髄穿刺施行となった。臨床検査： WBC1930/ μ l、Hb 9.0 g/dl、Plt 2.4×10^4 / μ l、TP 7.1 g/dl、ALB 4.4 g/dl、A/G 1.6、AST 13U/L、ALT 8U/L、LDH 154U/L、CHE 178U/L、BMI 15.73

【症例 3】 男性。基礎疾患： PNH-AA。臨床経過： 貧血進行が認められたため骨髄穿刺施行となった。臨床検査：

WBC 2250/ μ l、Hb 5.5g/dl、Plt 0.6×10^4 / μ l、TP 5.4 g/dl、ALB 3.1 g/dl、A/G 1.34、AST49 U/L、ALT 45U/L、LDH 335U/L、CHE 107U/L、BMI 16.34

【症例 4】 男性。基礎疾患： なし。発熱、倦怠感、著明な体重減少 (10kg/3 ヶ月)、IL2R 高値。臨床経過： 悪性リンパ腫を疑い骨髄穿刺施行となった。WBC 2890/ μ l、Hb 9.5 g/dl、Plt 3.5×10^4 / μ l、TP 5.4 g/dl、ALB 2.6/dl、A/G 0.81、AST 89 U/L、ALT 47 U/L、LDH 453 U/L、CHE 120 U/L、BMI 24.9

【考察】 骨髄標本におけるゼラチン様物質の存在は古くは 1930 年代より報告されている。その本体はムコ多糖類と同定されているが、その病的意義についてはいまだ不明のままである。基礎疾患には拒食症、HIV 感染症、悪液質などるい瘦をきたす疾患が多く認められており、今回の症例群も同様であった。GMT は近年 MDS に合併する例が報告されており、本来診断されるべき GMT が診断されていない可能性が高い。今後注意していくべき病態と考える

連絡先 TEL 025-368-9026